



かどや通信

第56号

発行日：令和5年7月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

おかげさまで十周年！ 記念式典実施



鳥羽大庄屋かどやは、今年五月に開館十周年を迎え、五月七日に記念式典を開催した。

式典では、まず、かどや保存会の寺田会長がこれまでかどやを支えてくれた方々に感謝を込めた挨拶にはじまり、中村鳥羽市長の祝辞とかどやを管轄している教育委員会・小竹教育長の挨拶が続いた。一人は、関係者の地道な積み重ねによって、かどやの存在価値が確立されたこと等、十年間の活動を評価してくれた。



続いて、かどやが公開される以前から今日に至るまで、かどやの成長に大きな貢献をされた方々
くかどや立ち上げから約五年間、かどや保存会会長兼館長として活躍した清水久行さんをはじめ、保存会

副会長として常に労を惜しまず大奮闘してくれた故大川千恵美さん、文化教室の先駆けとして茶道教室の開講を申し出てくれた千草石子さん(写真)、平成二十七年五月に開講し現在も参加者が

増えている、今最も活気あるトキメキ川柳講座の講師・斎藤たみ子さん、近隣で支えてくれた藤之郷や中之郷町内会、なかまち会等十組と、かどやの運営を支えてくれているボランティアスタッフの皆様さん々に感謝状が贈呈された。



その後、来賓として参加していただいた市議会議員の方々を紹介された。また、神奈川県から駆け付けた

一代目の廣野家十廣野芳夫さん(写真)が来賓代表として

挨拶。幼少期の一時期を過ごしたかどやと鳥羽の思い出を語り、思い深いこの建物を観光施設として支えてくれた関係者の方々に感謝を伝えた。



休憩を挟んで、かどやの資料調査を一人でコツコツ行ってきた鳥羽市文化財専門委員の野村史隆さん(写真)がかどや公開までの道のりを話してくれた。廣野事務局長は開館後の入館者数や各種教室の利用状況等の推移を紹介した。

最後に、かどやの蔵に長年眠っていた明治三十年代製造の長尾オルガンの演奏が行われた。「月の砂漠」等の童謡にはじまり、「川の流れのように」等八曲を、髯耕一さんのオルガン演奏に合わせソプラノ歌手の青木美和さんが柔らかな



が柔らかな透き通った声で朗々と歌い上げ、穏やかな雰囲気にもまれたまま、式典は終了した。

女流作家の豪華ラインナップ 十周年を彩る展示続々!

四月から八月の展示は、十周年を記念し、人気女流作家の作品展が続いた。四月は、イラストレーター・シャントリーーさん、五月は和紙人形作家の阿部夫美子さん、六月は草木染作家の高野葉さんという分野は異なるが豪華なブローの作品が並んだ。

《ほのぼのフルドにワクワク》

四月は「シャントリーーの絵とおはなし展 Box35」と題し、人や動物のほのぼのとした表情や仕事を描いた絵や切り絵、絵と木箱を組み合わせた作品等、約四十五点と、絵葉書やこれまで出版した絵本等が展示された。

展示のタイトルにもなっている木箱を使った作品は、箱の上に絵と、その絵にまつ

わる言葉が書かれており、さらに箱の蓋を開けると、そこにもメッセージが。どの言葉も心が安ら



子供たちも蓋を開けずにはいられない



ぐものばかりで、蓋をあけたら最後、すべての木箱をのぞいてみたくなる魅力的な作品ばかり。見学の方々も、ワクワク感に抗えず一つひとつ蓋を開けていた。

シャントリーーさんは約三十年前にイラストレーターとして独立し、出版物の表紙や挿絵などを手掛けているが、展示期間中は毎日かどやに出勤。ファンの多いシャントリーーさんは連日、来館者に丁寧に対応していた。



また、二胡も得意で二十年前から林佐理さんと二胡ユニット

ナを結成し演奏活動を行っており、九日には昼下がりにコンサートが開催された。四十名を超えるお客様が来られたため、準備していたイス席が足らず、スタッフを慌てさせるほどの大盛況だった。

《草木染で夏色展示》

六月の展示のテーマは「高野葉（ヨウ）草木染・写真展」陽光桜海を越えて咲き誇る」だった。ヨウさんの作品展は昨年二月の「陽光桜」平和に色があるなら、それは桜の色だと思っ」に次ぐ二回目。

陽光桜は、愛媛県の元教諭・故高岡正明さんが、第二次世界大戦中に戦地に散った教え子たちへの悔恨と平和への思いを込めて、極寒でも熱帯の地でも咲く桜を約三十年をかけて開発。その遺志を継いだ息子さんは世界各国に陽光桜を無償で送り続けている。親子二代にわたる平和への強い思いに感銘を受けたヨウさんは、約六年前から陽光桜を使った染め物に着手している。

今回は、陽光桜に加えて、アザミや桑の葉、藍等を使った柔らかな風合いのシルク・ショールも展示された。一階の座敷に飾られた十メートルにも及ぶ反物は、陽光桜で染めた布に濃いピンクの桜の花びらをプリントしたものと、アザミで染めたグリーン色の布に陽光桜の葉をプリントしたもの。春

の桜のピンクに加え、グリーンで初夏の爽やかさを表現した夏色の展示となった。

また、昨年亡くなった友人で歌手のおおたか静流（シズリユウ）さんへの追悼を込めた反物も飾られており、平和への願いと友への優しさが溢れていた。

また、六月十八日には陽光桜誕生の経緯を絵本にした「桜物語」



（大西伝一郎著）たちよこ絵の朗読会が行われた。伴奏は京都を中心に活

動している箏奏者の久保泉さん。大阪からお弟子さん一人も駆けつけ、朗読会の前から館内には箏の音が響き、桜物語にふさわしい豊かな午後のひと時となった。

十周年を祝う和紙人形展

五月の展示は、かどや開館十周年を記念して「阿部夫美子 和紙人形展」が開催された。

阿部さんの作品展は、十年前に開館記念の展示第一号として披露され、大好評を博した。

鳥羽市出身で伊勢市在住の阿部さんは、1977年に和紙人形の第一人者である中西京子氏に師事。以来、日本神話に基づいた神々をはじめ菩薩や歴史上の偉人、歌舞伎の登場人物、様々なタイプの雛人形など幅広いジャンルの作品を作り続けてきた。

かどやでの展示が四回目となる今回は、かどや末公開の作品を中心に、神話に登場する海神(わだつみや、救世観音菩薩、持統天皇、七福神など十九点が展示された。どの作品も和紙で作ったとは思えないしなやかさと気品あふれるたたくまいが、訪れた人たちを魅了した。かどやでの展示を知つてかけたファンはもちろん、たまたまかどやに立ち寄った観光客からも「こんな素晴らしい作

今にも動き出しそうな楊貴妃像



品に出会えるなんて」「ずーっと、見ていたい」等、感嘆の声が多数寄せられた。

縁の下の仲間たち⑬ 展示秘話 貴重な作品群に「ビビリまくり

和紙人形は、まず針金で作った骨組みに障子紙を巻き付けて肉付けし、顔や体は粘土を用い、着物は和紙を張り重ねて、立体的で躍動感のある作品が誕生する。一体に約二か月もかかるそうだが、構想を練り、イメージをふくらませる時間も含まれると、時間と知力・体力を駆使した大作である。ところで、かどやの展示は通常、出展者が運搬や作品の飾りつけを行うが、今回はかどやスタッフが運搬や展示の全てを行った。阿部さんの分身とも思える貴重な作品のため、スタッフは慎重の

うえにも慎重を期した。運搬にはレンタカーのライトバンを利用したが、搬入時も搬出時も天気予報は雨。人形は段ボールの箱に入っているが、段ボールが濡れても、人形にカビが生えることもある。そこで、雨は厳禁。天気予報を見ながら、レンタカー屋さんに無理を言つて、日程を変更してもらい雨を避けることができた。運転に關しても「スピードは出さず、慎重にお願いします」と指示が出た。しかし、運転担当のユウジさんは、現役時代は仕事の関係で大型車で県内を走ることも多かった。ベテランで、「心配い無用」と無事に大役を果たしてくれた。

展示は五人のスタッフが担当したが、こちらも終始緊張感にまつまればなした。搬入時にも耐えうるような細やかな梱包がなされていたが、搬出時に同じように梱包できるのか、特に楊貴



ビビリながら慎重に作業するスタッフの皆さん

妃のような繊細なものに緩衝用の紙を巻く時は、ハラハラドキドキが極限に達した。

さらに、雨が続き返却が遅れたため、段ボールに収まった人形たちは一階の仏間に仮置きした。六月二日は鳥羽に線状降水帯がかなり大雨警報に緊急避難命令まで発令され、かどやも十五時に閉館した。ところがこの日は所用で犬山市に出かけたため、かどやはユウジさんに任せて午後一時過ぎの近鉄特急に飛び乗った。その後、緊急避難命令を知り、人形が水浸しにでもなったら取り返しがつかないと、気が気ではなかつた。しかし、引き返そうとした頃には電車は動いておらず、「人形が無事でありますように」と祈るしかなかった。祈りが通じたのか、人形もかどやも無事。返却日も雨を避けることができ、阿部さんにお返しできた時の安堵感は忘れられない。

和紙人形に限らず、どの作品も作者が丹精込めて作り上げた物ばかり。お預かりする緊張感を改めて実感した次第。

小学生がかどや探検!

菅島小学校の生徒二十人と引率の教諭十人が五月一日、春の遠足の一環でかどやを探検した。

同校の遠足は三つの目標①自分たちの知らない鳥羽を知る②いろんな交通機関(市営定期船、かもめバス、近鉄電車等)を使い、公共でのマナーを学ぶ③一年生から六年生まで縦割り班での活動を通して、同学年・異学年間の交流を深めるーを掲げており、これまで、鳥羽市内をはじめお菓子博覧会や答志島、イルカ島等でウォークラリーを実施してきた。今年の特テーマは「かどやを探検!めざせ市民の森」で、五グループに分かれた生徒たちは、バスや電車を利用してやって来た。



台所で道具の説明を聞く生徒たち

「この遠足には、五つのミッションといくつかの約束ごとを決められていた。かどやでの三

ツミッションは、三つの写真(長尾オルガン、あんか、釘隠し)の名前を調べることだった。予め配られた写真をもとに実物を探すのだが、分からない時は、「かどやの人に教えてもらおう」とも書かれており、いろんな質問がかどやスタッフに問いかけられた。

約束は「気持ちのいいあいさつをしましょう」「くつは、班でまともにそろえてぬぎましょう」「で、しっかり実行されていた。

特に素晴らしいかったのは、縦割りグループのチームワークで、上級生が実に面倒見よく下級生に気配りしていたことだった。彼らが去った後で「縦割りで行動すると、思いやりも育つんやなあー!感心した」と、スタッフ間で感動を述べあった。

後日、「かどやさんへ物の名前がわからないときに、その物の名前と使い方、名前の由来をくわしく教えてくれてありがとう」「いろんな物を教えてくれてありがとう。くぎかかしをおぼえました」等々のありがとメッセージが届き、スタッフを喜ばせた。

◆◆貸部屋の案内◆◆

かどやを有効に活用していただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。詳細は、かどやへ。

電話〇五九九二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和5年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

会員数は平成30年度の351名がピークで、それ以降残念ながら年々減少しています。しかし、コロナ禍にも関わらず、令和4年度も261名と1法人が会員登録をいただきました。令和5年度は7月15日現在で238名と2法人からお申し込みをいただきました。皆様からのご支援を心より感謝いたします。新型コロナウイルスは今年5月8日から規制が緩和されましたが、かどやでは感染防止対策は継続しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、スタッフ一同これからも日々努力を重ねてまいりますので、引き続きご支援よろしくお願い申し上げます。お手続きがまだの方は、令和5年度(令和5年4月1日~令和6年3月31日)の年会費(1口2,000円)を、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し:かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込:郵便局 当座 かどや保存会 00850-4-151751